

事務事業名	S Lの走るまち拠点施設運営事業			担当	産業部 商工観光課 観光係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり		増補版施策名			
施策名	4	観光の振興		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 25 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	7. 商工費	1. 商工費		3. 観光費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	S Lキューロク館は、「S Lの走るまち」という市のイメージをさらに広め、観光の振興、交流人口の増加並びに周辺地域の賑わいの創出を図るために、平成25年4月28日に開館した。平成25年度から、真岡鐵道株式会社を指定管理者に指定して、管理運営を実施している。 鉄骨造平屋建（53.46m×10.46m×高さ12m） 開館時間は、午前10時から午後6時まで 休館日は、毎週火曜日と年末年始（12月29日から1月3日）。入場料は無料。 館内にはグッズショップやカフェがある。SL9600形は、土曜日・日曜日・祝日に3回（午前10時30分、正午、午後2時30分）走行を実施している。 真岡駅舎内の情報センター4階に「SLギャラリー」を新設し、既存のSL車庫、SL検修庫、転車台などを見学できるようにすることで、真岡駅構内全体をミュージアムとして位置づけている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 29年度実績 年度協定の締結及び指定管理料の支払い。指定管理者への指導。 S Lキューロク館敷地及び駐車場の土地賃借料の契約と支払い。 27年度 移設運搬整備を実施。 28年度 屋根設置工事を実施。（屋外展示してあるD51の保存環境改善のため） 29年度 動態化整備、軌道整備及び軌道延伸工事の実施。（空気圧縮で動かすことが可能な動態展示用に整備した） 30年度計画 年度協定の締結及び指定管理料の支払い。指定管理者への指導。 S Lキューロク館敷地及び駐車場の土地賃借料の契約と支払い。 29年度の整備を行い全国に誇れる新たな観光資源の有効活用し、30年度はDC本番であるので、誘客に繋げたい。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移									
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)		
	ア	指定管理料	千円	24,009	21,141	16,288	20,829	28,476		
	イ	開館日数	日	307	309	309	308	308		
	ウ	開催したイベント数	回	10	7	6	7	9		
エ	D51移設設置工事	千円		28,188						
オ	D51関連施設等整備事業	千円			21,896	27,959	0			
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 S Lキューロク館イベント来場者	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移									
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)		
	ア	周年イベント来場者	人	13,000	10,000	14,500	14,500	15,000		
	イ									
	ウ									
エ										
オ										
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） S Lキューロク館を適正に管理し、多くの方に来館してもらい、S Lの走るまちとしての市の魅力を伝える。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移									
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)		
	ア	来館者数	人	126,775	133,764	132,119	92,042	100,000		
	イ	来館団体数	組	116	105	92	91	100		
	ウ									
エ										
オ										
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） S Lの走るまち」という市のイメージをさらに広め、観光の振興、交流人口の増加並びに周辺地域の賑わいの創出を図る。 ・長計目標値（観光客入込数） H29 294万人 H30 297万人 H31 300万人	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移									
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)		
	ア	観光客入り込み数	人	2,865,281	2,865,612	2,912,127	2,990,648	3,000,000		
	イ	S L乗客数	人	32,616	33,482	35,050	37,617	38,000		
	ウ									
エ										
オ										
(2) 総事業費の推移										
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	19,185	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	37,053	30,144	38,184	48,788	28,476	
	事業費計(A)			千円	37,053	49,329	38,184	48,788	28,476	
	人件費		正規職員従事人数	人	0	2	2	2	2	
			延べ業務時間	時間	0	100	100	130	100	
			人件費計(B)	千円	0	419	415	540	415	
			トータルコスト(A)+(B)			千円	37,053	49,748	38,599	49,328

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	「S Lの走るまち」という市のイメージをさらに広め、観光の振興、交流人口の増加並びに周辺地域の賑わいの創出を図るために、S Lの走るまち拠点施設「S Lキューロク館」を整備し、平成25年4月28日に開館した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成26年度から、施設の所管課が企画課から商工観光課に変更となる。 平成27年度には、D51を静岡市から譲り受け、SLの拠点施設としてのさらなる充実化を図っている。 28年度 屋根設置工事を実施。（屋外展示してあるD51の保存環境改善のため） 29年度 動態化整備、軌道整備及び軌道延伸工事の実施。（空気圧縮で動かすことが可能な動態展示用に整備した）
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	本市の観光拠点施設として交流人口の増加を図り、観光の振興につなげてほしい。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 観光の振興、交流人口の増加並びに周辺地域の賑わいの創出を図るための観光拠点施設であり、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある SLキューロク館は、市の施設であり、市が行うべき管理運営業務を、真岡鐵道（株）が指定管理者として運営しているため、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある SLキューロク館は、SL9600型の走行を見学でき、「SLの走るまち」というイメージを効果的に広めることのできる観光拠点施設なので、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 今後、D51の移設整備や魅力的なイベントを実施するなどして、更なる来館者の獲得ができる可能性があるため、向上の余地がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 「SLの走るまち」という市の魅力を発信する拠点施設がなくなり、観光の振興を十分に図れなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 管理運営に係る必要最低限の経費であり、削減できない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 管理運営の委託業務で、市の人件費は最小限であり削減困難である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 入館料は無料であり、公正・公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							